

グローバル医療保険

海外赴任者の医療保障のあり方や「グローバル医療保険」の活用方法について考える。

(2025年12月10日開催、日外協「第19回 海外健康・医療セミナー」から抜粋)



講 師

マーサージャパン株式会社

グローバルベネフィットコンサルティング
部門代表

石田 実 氏

1つの保険で全世界の海外赴任者をカバー

海外旅行保険を中心に据える日本企業の海外赴任者の医療保障は、医療費が上昇し続ける中で岐路に立たされている。新時代の医療保険枠組みには、予防医療はじめウェルビーイング要素、海外赴任者間の公平性のほか、現地医療費のコストコントロール機能、事務負荷の軽減などが求められる。

グローバル医療保険は、新時代に合った海外赴任者専用団体保険。全世界の海外赴任者を1つの保険でカバーする(表)。

表 グローバル医療保険の特徴

カバー範囲が広い (事務負荷を軽減)	<ul style="list-style-type: none"> 予防接種・既往症、妊娠・出産・不妊治療、歯科治療も対象 日本企業向けに「人間ドックオプション」も付帯可能
全赴任者共通の保障内容	<ul style="list-style-type: none"> 赴任地による不公平感や個別対応の負荷軽減 海外→日本、海外→海外、三国間異動の場合も対応
長期赴任者向けのコンプライアンス対応	<ul style="list-style-type: none"> 高額医療費についての支払い制限がない正規の医療保険 マルチ言語の保険付保証明書にも対応
多面的なコスト・コントロール	<ul style="list-style-type: none"> 本社で全拠点分可視化できるためコスト・コントロールが容易 現地社員向け医療保険よりも割安(とりわけ米国) 提携病院の多くは割引価格で利用可能 予防医療(健康診断)を積極的に保障しきな病気を事前に防ぐ
グローバル企業を考慮された利便性	<ul style="list-style-type: none"> デジタルツールが充実しているため紙での手続き排除 マルチ言語のカスタマーサポートやデジタルツールが利用可能 アシスタンスサービス会社等との連動が可能(医療上の緊急搬送時)

出所：講演資料から抜粋

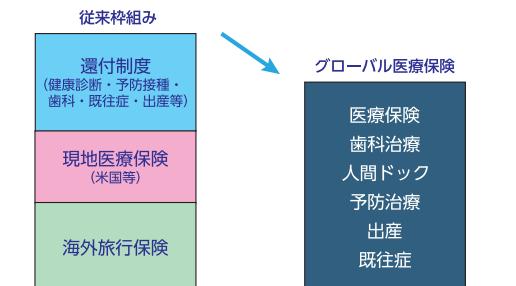
パッチワーク構造をシンプルに

現行の、海外旅行保険・会社還付・健保への医療費申請・現地民間医療保険といった3~4

階建てのパッチワーク構造や、アジア・米国・欧州などの地域による保障の差異は、「グローバル医療保険」により、一本化、シンプルにできる。

日系企業の「グローバル医療保険」導入例も増えている。目的は赴任者の多様化への対応と事務負荷軽減、処遇統一など。全体コストの削減を実現できるケースも多い(図)。

図 「グローバル医療保険」の導入効果
コスト面のインパクト



出所：講演資料から抜粋

キャッシュレスやオプションサービスも

グローバル医療保険は、提携医療機関の場合、立て替えは不要。保険会社と医療機関との間で精算を行う。提携外医療機関であれば医療機関の窓口で一時立て替えし、その後ウェブサイト・アプリを使って保険会社へ簡便に保険金請求が可能。

また、日本語カスタマーサポートに加え、緊急搬送、オンライン診療、メンタルカウンセリング、現地での人間ドックを受診可能とするオプションサービスも用意されている。